

変化する母娘関係

— 娘の結婚をきっかけにして —

大 角 尚 子

本論文では、娘の結婚をきっかけに母娘関係がどのように変化していくのかを両者の視点からより詳しく考察することを目的に、母・娘各10名ずつを対象にインタビューを行った。その結果、大きく分類すると母娘に共通して見られた立場の変化、母親だけに見られた変化、娘にだけ見られた変化の三つに分かれることがわかった。

共通に見られた立場の変化として、頼るようになった、何でも話ができるようになった、一定の距離をあけるようになった、同じ目線で物事を考えられるようになったという四つの変化が挙げられ、娘が出産を経験した母娘間においては、娘の出産による変化も見られた。

母親だけに見られた変化として、娘が嫁いだことによる安堵感と同時に寂寥感が強く見られた。娘は頼る存在が母親から夫へと移行したことによって、精神的に安定し自立したという変化が認められた。

母娘関係は、娘の結婚を機に、母親は過去に自分が歩んできた道を、現在娘が経験しているという実感から娘に対し強い親近感を覚え、娘は過去の母親と同僚的地位につくことによって母親に強い共感を覚え、また一定の距離が出来たことにより、母親を人生の先輩としても捉えるようになり、情緒的親密度は増すものと考えられる。子育て中の娘においては、自分を育ててくれた母親を、子の視点ではなく親の視点から再評価する傾向が見られた。

人間関係において、重要な要素である接触度は減るにも関わらず、親密度が

変化する母娘関係

増す傾向に見られたのは、お互いを思いやる心が強まり、絆が深まったことが要因と考えられる。これは、母娘間に見られる独特の変化ではないだろうか。

母娘関係にとどまらず、父娘関係また娘が結婚した後の父親、母親の夫婦関係など、視野を広げて変化を見ていくことが今後の課題として残されていると言えよう。